



藤建第9262号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長様

藤岡町長 永島源



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号にて依頼のありました標記のことについて、別添のとおり提出いたします。

記

提出書類

- 様式1 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など
- 様式2 地域の現状と抱える課題
- 様式3 目指すべき将来像
- 様式4 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式①

今後の道路行政についての意見・要望
①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など
藤岡町のような財政状況が厳しい地方公共団体では、単独での道路の適正な維持管理や新設道路の建設などは大変難しい状況です。

現在の制度では、補助金（交付金）・起債などがあるがいざれも自主財源が不可欠であり、起債などは後世に負担を強いるものである。

このため補助金（交付金）・起債以外に道路特定財源又はそれに代わる財源により、藤岡町のような地方公共団体に財源的な支援ができるような制度の創設をしていただきたい。

栃木県藤岡町

今後の道路行政についての意見・要望

②ー1 地域の現状と抱える課題

○現状

藤岡町は栃木県の最南端に位置し、自然豊かな渡良瀬遊水地の大部分を占め、都心から60kmという条件であるにもかかわらず、過疎化が進んでいる。

渡良瀬川及び渡良瀬遊水地により、町の中心部とその他の地区が分断されている。

渡良瀬川には、県道2路線の橋があるが、いずれも2車線の向上など、交通網の計画的な整備とともに、自然と調和した橋の北側が交差点になってしまっており、橋側等に右折車線がないため交通事故の原因となっている。また、いずれの路線も大型車両の通行も多く、歩行者等の交通安全に支障があります。

他の県道についても整備が遅れていて、小中学生の通学路に歩道がないなど安心安全な道路とは言い難い。

町道になつてている大規模農道の県道昇格、その先の渡良瀬川に3カ所目の橋を架けて国道354号への接続し利便性・災害時を運搬する大型車両の通行が多く、道路の維持管理に苦慮している。

○課題

○ 現状道路の状況の改善を、県等に要望しているところではあるが、用地等の関係もありなかなか進まないのが実情である。また、国土交通省管理の河川の絡みもあり、国・県・町の連携が不可欠とおもわれる。

町道の整備に関する課題としては、渋滞解消や国道・県道へのアクセスの向上など、交通網の計画的な整備とともに、自然と調和したデザイン等、防災や交通安全、高齢者や障害者・子供への配慮など、道路の質的な向上が課題であります。また、財政基盤が脆弱なため、起債・補助以外の安定的な道路財源の確保が必要である。

町道になつている大規模農道の県道昇格、その先の渡良瀬川に3カ所目の橋を架けて国道354号への接続し利便性・災害時を運搬する大型車両の通行が多く、道路の維持管理に苦慮している。

今後の道路行政についての意見・要望

②-2 地域の目指すべき将来像

「ハートにアクセス一人と自然が出会う町・ふじおかー」の実現に向けて、渡良瀬遊水地、三毳山などの自然環境を生かし、住民や観光客に憩いや安らぎ、スポーツ・レクリエーションの機会を増やすため、東北自動車道・国・県道とのアクセス道路、施設や観光資源間の交通の利便性を確保するための道路が整備され、誰でも気軽にスカイスポーツ・水上スポーツや他のスポーツ・レクリエーションと渡良瀬遊水地や三毳山の自然の中の散策などが楽しめ、また訪れたいたいと思う町の創造。

また、自然との調和・防災や交通安全・高齢者や障害者・子供に配慮した道路を整備し、安全安心な生活空間をつくり若者が住みたいと思う町の創造。

様式③

栃木県藤岡町

今後の道路行政についての意見・要望

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	国道50号から町道5号線間の道路の新設 町道6号線を県道蛭沼川連線まで延伸する ・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	交通の利便性が良くなり、地域の活力向上につながる。 工業用地が沿線にあるので、物流・通勤等の利便性の向上。 左記の県道4路線は、いずれも重要な路線で総合的な交通安全対策とともに災害時の交通の確保になる。	大規模農道は広域的な交通の役割を果たしており、県道昇格により適正な管理が期待できる。(町単独では管理が難しい)また、渡良瀬川に架橋・延伸しての国道354号への接続による利便性・災害時の交通の確保。

様式④